

磯の香

10周年記念新春号



東京上磯会設立10周年記念 さっぽろ上磯会設立40周年記念 ふるさと訪問



去る10月16・17の両日、東京上磯会10周年&さっぽろ上磯会40周年を記念し「ふるさと訪問」が行われました。17日には役場で歓迎式が行われ、海老澤町長による歓迎のあつさつのもと、上磯奴が披露されました。続いて、会場を「れいんぼ〜」に移し歓迎のつどいが行われ、参加された皆さんは「ふるさと上磯」を懐かしんでいました。



ふるさと上磯町へ到着



旧交を温める



町指定無形民俗文化財・上磯奴を披露



東京上磯会・さっぽろ上磯会から町へ寄付金が贈られました



とき 時間を忘れて…



会長挨拶

創立一〇周年を迎えて

東京上磯会会長 郷内 繁

会員の皆様、健やかに新年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。ここに東京上磯会として一〇周年記念号を創刊することが出来たことは、ご同慶の至りです。これもひとえに会員皆様のふるさとを思う熱い心の証と申します。



昨年は国内外にあって思いがけない出来事に衝撃を与えられました。台風・震災によって、家族・家・仕事を失った人、泥沼化したイラクにあつてひたすら平和を願う人々、残酷なテロによってかけがえのない命を奪われた人……又拭い切れない不況感など将来への不安が増幅した一年だったように思います。二〇〇五年は西年です。酉は仁と徳を兼ね備えた吉運の象徴とされて居りますが、今年こそ良い年でありたいものです。

扱て東京上磯会ですが、昨年一〇周年の記念行事として“ふるさと訪問”と現地での定時総会を実施致しました。我々の予想を遥かに上回り、七〇名を超える出席者を得て盛大に執り行われました。

その一部をご紹介致しますが、我々一行はまず町役場での歓迎式典に臨み、海老澤町長より身に余るお言葉と花束の贈呈を受け、引続き役場前広場にて、鈴の音と勇壮な掛け声に乗った郷土芸能の“奴”を観賞、幼ない頃の懐かしい思い出を彷彿させられました。そのあと町の会議室をお借りして定時総会を無事済ませ、待ちに待った“歓迎の集い”に赴きました。

そこには海老澤町長、水上町会議長をはじめ町会議員の皆様、役場の要職におられる方々総勢四〇名にも及び文字通り町をあげての歓迎でした。又、その会場には町の計らいで札幌上磯会のメンバー三〇名弱が合流し賑やかで盛大なレセプションとなりました。会員一同驚きと感激で一杯でした。

翌日はバス二台に分乗しての観光となり最初に訪れたのが茂辺地です。ここでは“サケの遡上”の観察でした。サケの必死になって川をのぼる光景を目の当たりにし、サケの母川回帰の本能のように私達がふるさとへの郷愁から今回のような行動をとっている姿とオーバーラップしてしまいました。

そのあと上磯駅前でいただいた町婦人部の方々による手作りの郷土料理、どれもこれもおいしく懐かしい食べ物ばかりでした。会員の皆さんが喜んで舌鼓を打っていたのが印象的でした。

昼食のあとは変貌を遂げた町並みを後にし合併間近かの大野町を通り最終目的地の大沼公園へと向いました。何んとも楽しく贅沢な二日間でした。

本会は創立以来、町から受けた御支援・御協力は計り知れないものがあり、又この度は行き届いたご配慮を賜わり心からの感謝の意を申し上げます。本会としても必ずやふるさと上磯の発展にささやかでも寄与出来る組織に育て上げなければとの思いに駆られました。

本会は現在三〇〇名を超す会員があり、毎年開かれる総会には多い時で約一二〇名前後の出席者を得ております。会はふるさとへの郷愁を共有する者同志の集いにとどまらず厳しい現実社会での生活からくるストレス解消の場となってくればとの思いで今日迄続けてまいりましたが、まだまだ改革改善していかなければならない点が多々あります。最終的には会員の高齢化が進むなか、若年層へのアプローチ、又会の運営のマンネリ化に対しては、定時総会の在り方、又更なる親睦を深める為の諸行事の企画等一層知恵をしばらなければと痛感致して居ります。今後共会員皆様の益々のご支援とご協力をお願い申し上げます。

『ふるさと上磯会へ夢のレールロード』

—北海道新幹線—

上磯町町長 海老澤順三

東京上磯会創立一〇周年記念の会報発刊にあたり心からお喜び申し上げます。

平成一六年一〇月のふるさと訪問に際しましては、さっぼる上磯会の創立四〇周年記念と重なり合同で開催されたことはそれぞれが節目として、また、ふるさと上磯で対面できたことは本当に感慨深いひとときであったと存じております。東京上磯会が発足して一〇周年と言いましても最初頃の苦労はまるで見当のつかない中で、前後何十回となく意見を交換しながら、ようやく結成に漕ぎつけた旨のお話を聞いております。

故相馬名誉会長さんが会報の中で述べておりましたが、若き世代の心を取り戻すためにどうすれば良いのでしょうかと問うて、次のように提案しておりました。

「戦後の貧困の激動の時代を身をもって体験され、心に優しさが溢れている故郷の皆さん達と、現代っ子達とが、故郷を遠く離れた東京の地で交流の場を広げることが、もっとも効果的な優しさを呼び戻す方法ではないかと思えます。このような意味において、私はふるさと会に、この遠大な理想を旗印に掲げることを提案したいのです。今、失われつつある「やさしさと思いやり」の心を蘇らせる場としての活用で、いつの日か必ずふるさと上磯にフィードバックされるでしょう」というものでした。



ところで今年、全国各地で台風や大雨による土砂災害や河川の氾濫、また、新潟中越地震による大きな被害が

発生しました。当町においても、九月に台風一八号が直撃し、瞬間最大風速五四メートルという、昭和二九年の洞爺丸台風に匹敵する暴風が吹き荒れ、大きな被害をもたらしました。

町政の執行にあたりましては、平成一六年度に予定した事業は順調に進捗しております。なかでも老朽化のため立て替えを計画しておりました茂辺地生活改善センターは、七月の完成をめざし着々と進んでおりますし、完成のあかつきには茂辺地地区のコミュニティの活動拠点として大いに活用されることと存じております。

北海道新幹線については、道民五七〇万人の悲願であった北海道新幹線の新青森・新函館間の着工が平成一七年度から決まり、一〇年後の平成二七年度の完成をめざし工事が始まります。今後も早期完成に向けて力強い運動を展開してまいりたいと考えております。一方、並行在来線の問題については、住民の足を確保する重要な問題でありますので、在来線を運行することを基本方針として、北海道、沿線市町と協議を進め、開業までに結論を見出したいと考えております。

大野町との合併については、平成一八年二月の合併をめざし、合併協議を進めてきましたが、合併協定項目となる合併の方式や住民サービスに係る協議項目がすべて決定され、両町の合併に向けた協議が整ったところでございます。今後は、三月に議会の議決をいただき、三月中には知事に申請することとしております。

また、合併後の新しい市の名称を「北斗市」と決定いたしました。が、「北斗」というのは小さな星がかたまって、一つの星になったのが「北斗」と言われております。更に、「泰山北斗」と言う言葉があります。世に優れた物、世に優れた人を泰山北斗と言うことですから、そういう意味から言っても上磯町の光る星と、大野町の光る星とが一体となって「北斗」となるということは素晴らしい名称、市名ではないかと思っております。そういう素晴らしい意味を含めた「北斗」となるわけですので、その名前に負けないような立派な都市づくりを進めていかなければならないと思っております。

今後とも東京上磯会の会員の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、東京上磯会のみならずの発展と会員皆様のご健勝をお祈りいたしまして、会報発刊にあたってのごあいさつと致します。

議長 挨拶

『ふるさと上磯から、輝く北斗市へ』

上磯町町議会議長 水上 務

一言ご挨拶を申し上げます。
年が明け、平成一七年に入りましたが、東京上磯会の皆様方におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

昨年は札幌上磯会とともに開催されたふるさと訪問で、和やかなひとときを味わうことができて本当にありがとうございました。皆様がふるさとを想う気持ちを聞くにつけ、ふるさとの留守を預っている者にとっては、力強い応援を得た気がいたしました。温かいものを感じました。

さて、新聞紙上でもご承知の通り、五七〇万道民の悲願でありました新幹線の鉄路が青函トンネルを通り、北海道の、しかも隣町の大野町に新駅がつけられ本道の玄関口となることに決まりました。東海道新幹線が開通してから実に四〇年の歳月が経過していますが、新幹線の安全性とスピードを上回る乗り物はいまだに出現していません。それだけに、東京や関西と遠距離にある我々にとって、経済の発展や物流、観光産業の振興などに大きな期待感を込めております。

また来年二月には、明治一三年以来一二五年馴れ親しんできました「上磯」から「北斗」へ、「町」から「市」へ衣替えをすることになりました。在京の皆様には、上磯のままの方が良かったのかも知れませんが、この名称が皆様方の心の中にふるさととして根付いてもらえるように努力したいと思います。



合併によって生まれる新生北斗市は、広大な大野平野のほぼ中央を占めることになり、伸びゆく南北海道の中核都市に成長することを期待させるものが

あります。この恵まれた地理的条件を生かして、新しいまちを構築したいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。
そうは言いますが、北斗市の行く手は決して光り輝くことばかりではなく、薄明かりの未来が待っているかもしれません。そういうときには、東京上磯会の会員の皆様方からの知恵やご助言を頂戴しなくてはなりません。金や物が力の象徴であった時代から知恵と工夫の時代に入ってきておりますので、遠慮のないご意見、ご叱正を賜りたいと存じます。
終わりに、東京上磯会のみならずのご発展をお祈り申し上げます。また会員各位のご隆盛をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。私ども議会も海老澤町長とともに、ふるさと上磯を大切にしつつ新生北斗市を振興発展させて行くようがんばりたいと思います。



上磯会一〇周年ふるさと旅行

—故郷上磯表敬訪問・観光・総会—

ふるさと旅行表敬訪問・観光日程概要

第一日目 10月17日(日)

羽田発11:45 (JAL一六五) 函館着13:05
 15:00 上磯町役場表敬訪問・郷土芸能見学
 (やっこ保存会)

◇歓迎式 15:00~15:45 (上磯町役場大会議室)

◆開会

◆花束贈呈 上磯町長より東京上磯会長・札幌上磯会長へ

◆歓迎あいさつ 上磯町長 海老澤順三

—正面玄関前へ移動—

◆上磯奴披露 上磯奴保存会による奴演技披露

上磯町奴保存会会長 黒田栄吉

※子供会員より花束贈呈

◇第10回定時総会開催

16:00~16:30

(会場は七重浜「れいんぼー」)

◇歓迎のつどい

17:30~19:30

(七重浜住民センター大ホール

「れいんぼー」)

◆歓迎のことば 上磯町長 海老澤順三

◆お礼のことば 東京上磯会 会長 郷内繁

さつぽろ上磯会会長 春野守夫

◆祝杯 上磯町議会議長 水上 務

—懇談—

◆乾杯 上磯町助役 高谷 寿峰

◆閉会

21:00 湯の川温泉「啄木亭」宿泊

第二日目 10月18日(月)

9:30 宿泊地出発、バスにて観光

〈上磯〉

①七重浜から上磯本町地区への街並みを車で周遊

②茂辺地・鮭の週上

③アンピックスゴルフ場から町内・函館湾を一望

④上磯ダム公園見学

⑤松前藩戸切地陣屋跡(清川)見学

上磯駅前 商業活性化支援センター

「エード03」にて昼食

〈大野〉

⑥八郎沼公園

⑦きじひき公園

〈七飯〉

⑧大沼公園観光

18:30 函館空港(1泊2日の方)にて解散

函館発19:40 (JAL一六八) 羽田着21:00

延泊者

10月19日(火)、20日(水)、21日(木) 共

函館発19:40 (JAL一六八) 羽田着21:00



東京上磯会 第10回定時総会

<総会> 16:00~16:20

- | | |
|--------------------|--------|
| 1. 開会の辞 | 小松事務局長 |
| 2. 会長挨拶 | 郷内会長 |
| 3. 会計報告 | 加藤会計幹事 |
| 4. 会計監査報告 | 相馬監査人 |
| 5. 議案1 役員改選の件 | |
| 6. 議案2 町福祉団体への寄附の件 | |
| 7. 役員紹介 | |
| 8. 新人会員紹介 | |
| 9. 閉会の辞 | 小松事務局長 |
- 以上



平成15年度収支報告書 (自 平成15年9月1日 至平成16年8月31日)

収入の部 (円)		支出の部 (円)	
前年度繰越金	117,920	総会懇親会関係費用	539,491
年度会費 (140名)	280,000	印刷・事務用品・郵送料他	111,176
総会懇親会会費	516,000	ふるさと会他関係団体費用	27,140
同上ご祝儀	40,000	幹事会開催会議室使用料	5,120
雑収入	9,811		
合計	963,731	合計	682,927

差引残高 280,804円

平成16年9月1日

会計 藤田 幸・加藤和子

平成15年度中における会計収支について関係帳簿、現金、及び預金について監査したところ会計決算報告書の通り相違ありません。

平成16年9月10日 会計監査 相馬 滋



寄付金への御礼の言葉

東京上磯会様

拝啓、日頃より町政各般に亘り格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度は町内の恵まれない方々への寄附をいただき、誠にありがとうございました。

皆様の暖かい善意が大きな輪となり、平成一五年度末において四、九〇二万円もの額になりました。これもひとえに皆様方の思いやりによるもので、この暖かなお気持ちの結晶をより大きなものにするため、昭和五六年度より災害遺児育英基金を創設しました。これは交通事故や海難等により、不幸にして一家の支柱を亡くされた町内の子ども達が、逆境に負けることなく一層勉強に励み、将来立派に巣立っていただくための一助として、小学校、中学校及び高等学校在学中に、この基金より育英資金として支給するものでございます。また平成七年度からは、病気によって遺児になられた児童も対象になりました。

今後このような恵まれない方々に暖かな手をさしのべていただくよう広く町民に訴え、より大きく善意の輪を広げ、一層充実したものにして参りたいと考えておりますので、今後とも変わらぬ御理解と御協力をお願い申し上げます。

書中にて失礼とは存じますが、お礼の言葉と致します。

平成16年10月25日

敬 具

上磯町長 海老澤順三

ふるさと訪問旅行

—紀行文・随想—



故郷を訪ねて

棟方美千子

東京上磯会発足十周年を記念して、総会を故郷上磯で開こうと発案して、今日羽田を出発する事になり、なんと七〇名もの参加者がいる事に、まず驚きました。好天にも恵まれ、函館に降りると、町からの迎えのバス、そして、町長さん初め、議員さん、職員さんの暖かい歓迎を受け、心が和む思いがしました。やっこ保存会のやっこを見せていただいた時には、とても嬉しく、子供の頃のお祭りが思い出され、カメラを覗くレンズが涙で濡れているほどでした。夜の懇親会には、札幌上磯会の人達とも交流が出来、久々に心なごむ時間を過ごさせていただき、とても感謝しております。

又、二日目には、宿泊地まで迎えに来ていただき、上磯町の観光地なども廻っていただきました。私は故郷を離れてまだ、二十年たらずですが、上磯ダム、八郎沼、そしてきじひき公園など、ほとんど知らない所が多いのに驚いた事と、又故郷にいても、自分で行く事があるかどうか分からない所を覗かせていただき、ただ、感激の時間でした。お昼は婦人会の方々のごちそうで、懐かしいじゃがいもの煮たのやら、シャケのサンペ汁など。特にじゃがいもに塩辛などは、東京の方では決して見る事のできない、北海道独特の物が出された時は、皆いつせいに箸が出ていた事には驚きました。

でも、この聞き馴れた上磯の町名も、もうすぐなくなる事にさびしさを感じる事も又現実です。しかし、どんなに遠く離れていても、まだ名が変わろうとも、故郷に変わらない事も又現実。いつまでも懐かしい、そして少しも住み良い故郷である事を心から願っています。そして今回の旅行を準備して下さった、役員の方々に心より感謝申し上げます。東京上磯会永遠に輝け！

上磯会に参加して

市川 雅夫

町長さん先頭に、職員さん、町議さんの一体になった心温まる歓迎には強く感動しました。茂辺地川の鮭、永い間の人々の努力と自然の結果ですね。道南と言えば、函館山と五稜郭ですが、上磯ダム、八郎沼公園、展望台と、惜しみなく紹介され自然がいっぱいですね。展望台の眺望が少し残念でしたが、訪ねる度心掛けてみようと思っています。二日目の昼食の献立て、婦人会の活動などこれからのふる里

北海道上磯町役場

本 庁 上磯郡上磯町中央一三二〇

TEL 〇一三八(七三) 三一一一

FAX 〇一三八(七三) 六九七〇

茂辺地支所 上磯郡上磯町茂辺地二五五六

TEL 〇一三八(七五) 二〇〇一

七重浜支所 上磯郡上磯町七重浜二二三二二五

TEL 〇一三八(四九) 一三五六

は楽しみでいっぱいですね。二日間にあたり大変ありがとうございました。(昭和十年三月生)

「我がふるさと・訪問記」

伊藤 民雄

函館空港からバスで上磯町の役場へ直行した。車窓からの景色は一変していた。大野から木古内方面へ高速道路が延び、七重浜から久根別の海岸は海が見えないくらい建物がぎっしり建っていた。子供の頃、夏になると家からパンツ一枚でよく久根別の浜で泳いだり、貝を取ったものだ。道沿いの家も皆新しくなり綺麗である。

小中学校、高等学校も新しい場所に建っていた。町民ホール「かなでーる」や「特別養護老人ホーム」「町役場」など立派になっていて、裕福な街になったなと思った。役場に着いたのが三時、海老澤町長以下職員、町会議員の方々の出迎えを受け、表敬訪問のイベントが行われた。その中でも「奴保存会」が我々の為に行列し、「えー、よいやさーのさー」と、昔ながらの掛声で舞を披露してくれたのには、身体

中に震えがきて感激の涙が出てきた。幼い頃よく行列の後をつき歩いたものだ。

夜には、七重浜に新しく出来た「れいんぼー」で東京上磯会第十回総会が行われた。その後、地元の方々による歓迎の集いが札幌上磯会も加わって盛大に行われ、地酒や五島軒の料理に舌鼓を打った。昔話に花が咲き子供の頃の思い出が一杯だった。宴も終り、「啄木亭」へ向かう。

二日目も町のバスで郷土の色々な所を案内してくれた。茂辺地の鮭の養殖場、上磯ダム、オートキャンプ場、アンビックゴルフ場。どこへ行っても綺麗に整備され、自然が一杯であった。お昼は、婦人会の方々が前日から仕込んでくれたほつき飯、三平汁、じやがいも、あわび等々の上磯郷土料理をご馳走になり、懐かしい味だった。やはり地元の食材での料理は絶品である。

午後は、大野の八郎沼公園を散策し、初秋の一時を過ごした。その後、大野平野、駒ヶ岳大沼方面を一望できると聞いていたきじひき公園に登ったが、あいにく曇りであつすらとしか見えなかった。次回楽しみにしておく。



最後は、大沼公園。ここはいつ来ても、何回来ても良い所で心が休まる。山川牛乳をのみ、大沼だんごをお土産に帰路についた。ふるさと訪問の旅もここで解散となった。わずかな時間であったが中味は充実した旅だった。上磯を離れ、四五年になるが、ふるさとがこんなに整備され、農・工・漁業が栄え、環境に恵まれ豊かな町になっている事に誇りを持つ。人口が増加していると聞き、うなづけた。これから温かく魅力溢れた夢のある町造りに期待する。役場及び関係者の皆様には、休日にも係らず大変お世話になった事に感謝致します。

上磯の訪問旅行には家族四人で参加し、幼い頃の思い出を共有できたことは、我が人生にとって大変有意義な一時であった。(横浜市在住)

ふるさとに帰って

茨城県日立市 清水自憲司

この度は、東京上磯会の十周年行事として、ふるさと訪問ツアーに夫婦で参加させていただき誠に有難うございました。

訪問に際し、何から何までお世話になりました海老澤町長はじめ、町議会の議員さん、町役場の関係各位に心から厚くお礼申し上げます。

久し振りに見た上磯町は、道路が整備され、田畑は住宅化され。福祉・教育の充実、環境と産業のすばらしい発展と変貌振りに驚きました。これもまた町民お一人お一人の汗と努力の賜物と感謝申し上げます。これからも益々の発展と豊かな町でありますよう祈念申し上げます。

初日、上磯町役場を訪問し、歓迎式典の後上磯奴保存会による奴演技を見せていただき、綺麗で力強



い演技に感動しました。子供の頃、何度か見たことがあり、ホウキを持って奴の真似をしたことを思い出しました。奴保存会の皆様、本当に御苦勞様でした。

七重浜のレインボーでの「歓迎のつどい」では、盛大なパーティーと帰りには上磯特産のお土産まで頂戴し誠に有難うございました。

上磯町観光協会

会長 佐々木 博史
副会長 新関 隆
外 役 職員 一同

上磯町飯生三丁目四番一号
(上磯町商工会内)
TEL 73-2408
FAX 73-2474

五〇数年ぶりに逢った小学三年生の担任石川先生が「花屋の清水目：」と覚えていてくれ、当時の田沢校長や六年生の担任荒木先生の昔話をしていただき、同級生や友人たちに「ケンちゃん」と呼ばれ、涙の出るほど嬉しく思いました。

二日目は、バスで名ガイド川村さんにより上磯町を、ユーモアを交えて詳しく説明していただきました。茂辺地川の「さけの遡上」風景を見て、上磯ダムに行き各自記念撮影をし、野草を見ては「ごげちよう」「どんげ」「なんも、ほんじねい」等、子供の頃使った言葉が次々と出てきては童心に返りおおは



しゃぎしました。

昼食は「エイド03」にて婦人部の皆さんが作った、ほつき御飯、さんぺい汁、じゃがいも等大変美味しくご馳走になりました。

午後は、上磯町と合併する大野町の街並みを見ながら八郎沼公園、きじひき公園を経由して大沼公園に行きました。大沼公園では久しぶりに遊覧船に乗り、子供の頃遠足に来たことを思い出し、楽しく語りながら帰路につきました。

最後に郷内会長をはじめ、事務局、幹事の皆様に大変お世話になり厚くお礼申し上げます。

「ふるさと訪問ツアー」の準備について

東京上磯会事務局長 小松 直樹

平成一五年一〇月の東京上磯会第九回定例総会の議題には、次年度の一〇周年の記念事業として「ふるさと訪問ツアー」が企画提案されていた。総会に出席した八〇余名会員の満場一致の賛成を得てその議案は可決され、「ふるさと訪問ツアー」の準備が具体的に動き出したのである。



その翌月から約一年間、役員さんは休みを返上し準備会議のための役員会を毎月一回のペースで開催（だいたいい土曜日に開催）。郷内会長の指揮の下、日程・費用・観光ルートを選定・旅館の選定そ

して参加人員の予測等々を議論し決めていったのでした。会員への最終案内により七〇余名の参加人員を得ることが出来ました。（最終的に参加者は六八名）。

そして、事前に町役場との最終打合せをするべく、平成一六年九月二

二日朝八時半、函館空港に降りたのであります。その

日は、折りしも雨がしとしとと降る寒い日であったが、出迎えてくれた町民窓口課の深田主幹の車でなつかしの上磯町へ向った。その日の午後、小野課長、深田主幹と「レインボー」のある七重浜支所に向かい、所長の浜西さんの案内で大ホール、小ホールを見学、そのすばらしくそして設備も行き届いた施設を見て、ここで総会、懇親会が出来ると思うと本当に良かったと、大ホールの演壇で感じました。次に役場の用意してくれたレジメ（資料）をもとに、ツアーの空港到着からバス手配、「歓迎式」の段取り、「歓迎のつどい」の段取り、そして「観光ツアー」のルート決め等々、一つ一つ落ち度のない様に意思疎通を図り決めていきました。打合せ終了後、役場の車で上磯町内の観光ルートを下見し、確認を致しました。下見の途中、役場に立寄り海老澤町長にご挨拶させていただき、一ヵ月後に迫ったふるさとツア



上磯町商工会

会長 宮崎 高志

上磯町飯生3-4-1 TEL.0138-73-2408

ーの開催準備にお礼を申し上げると共に最大のご協力を再度お願い致しました。この最終打合せを終えた段階で、役場の万全の準備そして最大級の歓迎を用意してくれることを確認でき、今回の「ふるさと訪問ツアー」の成功は間違いないと実感致しました。そして一〇月一七日、一八日の両日、「ふるさと訪問ツアー」と第十回定例総会」を予定通り挙行した次第です。参加した会員の全員が、すばらしく良くなった故郷を体感でき、ただ感謝、感謝でありました。あらためて故郷の有難さ、懐の深さを実感でき、海老澤町長、水上議会議長はじめ役場関係者の方々そして我々を温かく迎え入れ、大歓迎をいただいたきました町民の皆様方に深く感謝したいと思います。本当にありがとうございます。

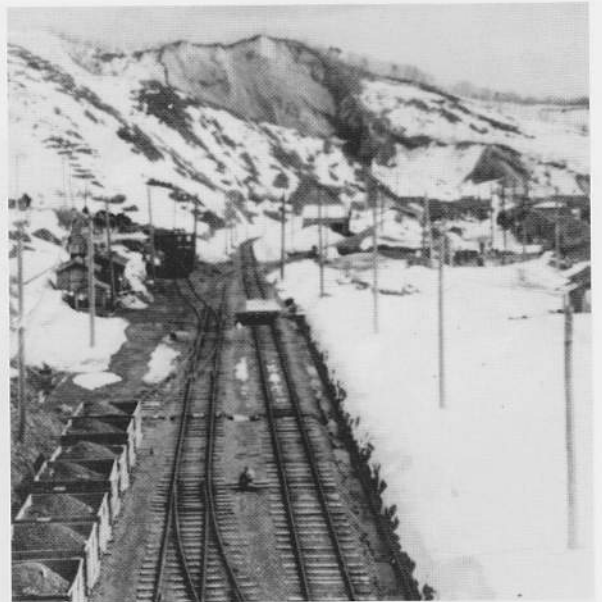
ふるさと

武井満野子



峯朗の山奥から、離れて四五年余経ちました。日本セメントの社宅で子どもの頃を過ごしました。

殺伐とした東京で暮らしていると、あの山・川・水・空気の美味しい峯朗でまた暮らしてみたいと思います。自分で住んでいた裏山が、無くなっていたのには驚きました。裏山に登ると、函館山が見え、連絡船がボーッと汽笛を鳴らして走っていました。一人でよく登り、大きな声で歌を唄っていました。昔の面影といえは、ただ一ヶ所だけ、神社の鳥居が残って居りました。子どもの頃、お正月、除夜の鐘を聞いて、きれいな着物をきせられて、母と手をつなぎ雪の道を歩くと、キュッキュッと音を鳴らし、



峯朗鉱山鉄道 昭和35~36年頃

お参りした事が甦りました。

故郷の人はみな家族のようでした。ほとんど全員の名前を知り、内情がわかり、性格まで知り尽くし、ほんとうに大家族のようでした。ところが最近ほれもだんだんと記憶が薄れてきています。

今回の旅行で、それ以来会うことの無かった方々に、再会することが出来、名前をちゃんと呼び合ひ、昔ばなしに花を咲かせて、一日を過ごしました。今回の旅行の幹事を引き受けてみて判ったことが



あります。この旅行の計画をたててから、何度も何度も打ち合わせを開きました。でも、無事に何事も無く終わり、

皆さん胸を撫でおろしておりました。

また、来年発行の特集版をだすのに、作業にかかっております。幹事の皆様、ほんとうにご苦労様です。頭が下がります。私は今回の旅行は、大満足です。上磯町の大歓迎をうけ、美味しいご馳走をいただき、そのうえに、つたない私の詩舞を躍らせて頂き、満足・満足 大満足でした。

「昔のおもかげ」

七重浜 浜分 藤田 幸



親会 ふるさと巡り 事乍ら、時の流れを自身の眼でしっかり捉え、複雑な心境になりましたのは私のみでしょうか。しかしその様な中で、鮭の遡上は初めて、子孫繁栄の為の力強さを画像では無く確かに川の流れに逆らう様に命を掛けて泳いで要る姿は感動の一語に就きました。

道は綺麗に舗装

北海道新聞

(有)宮崎新聞販売所

上磯町飯生1-12-1

- 上磯店 ☎73-2228
- 久根別店 ☎73-3563
- 七重浜店 ☎49-0056
- 港店 ☎41-7722

され車窓の流れに身を任せてここは上磯なの？あの砂利道は？畑は？田んぼは？一抹の寂しさを感じました事も私の偽らざる心境です。

唯、今後北斗市に成る為には必要な要素を沢山貯えて上昇気流に乗った町、今昔入り混じった風景に町長さん始め職員の方々の、前向きな姿に期待し、素晴らしく素敵な思い出を沢山有難うございました。また関東在住の私共が自慢出来るふるさとで或る事を切に願って居ります。

「再会」

本間美耶子



高校を卒業後、上京し東京で暮す方がはるかに長くなりました。

何回か帰ります。

上磯に母が住んでいるので年

今回は東京上磯会一〇周年記念で小樽で生活している同級生も参加し四四年振りに再会致しました。会ったとたんお互いにすぐわかり美耶ちゃん〇〇ちゃんと呼び学生の頃にタイムスリップし、楽しいひとときを過ごす事ができました。古里っていいですね。

波乱で終えた ふるさと訪問記

茂辺地小学校卒 佐藤 金也



今回のふるさと訪問は、格安な旅費と地元での熱烈歓迎を受けて「何となく得した気分」で終えることと予想してました。



ところが一〇月二〇日帰京組にとっては青天の霹靂でした。台風二三号による影響で、JAL最終便は欠航したのです。しかも翌日の全便もすでに満席で空席待ちしかないとの説明です。一同不安にかられJAL責任者へ全日空への振り替えや翌日の席確保の交渉をしましたが、融通がきかないと言いか誠意がないと言うのか、まったく交渉進展しませんでした。

楽しかった思いでも一瞬の内にJALへの恨み節に変わってしまいました。最終的に一〇月二〇日の夜はそれぞれ函館もしくは実家などに一泊することになり私は翌日の朝、七時の特急にて八戸へ出て新幹線はやてにて帰京することになりました。一〇月二〇日帰京組にとっては辛い思いでと地元での熱き歓迎とで複雑な心境であったことと思います。後味の

悪い幕切れですが自然災害には勝てません。自分達の都合を強く主張するも影では被災者の辛い状況を思いやって心が痛むのも事実でした。

最後に今回のふるさと訪問には海老澤町長始め役場の皆様、町民の皆様には多くのご支援、ご厚情を賜り感謝にたえません。また上磯会幹事の皆様方にも深く御礼を申し上げます。有難うございました。

東京上磯会 10周年記念・会報発行にあたり

昭和28年 浜分小学校卒 中村 紀之

東京上磯会が一〇周年を迎える事が出来ました事、幹事の一人として嬉しく思います。私が東京上磯会に初参加したのは、五、六年前の事でした。その時の、相馬前会長の会発起趣旨説明の一つに、「会員同士の親睦を図り郷土の発展に寄与出来れば」とのお言葉があったように記憶しております。最近の上磯町と東京上磯会との関係を見ますと、まさに前会長の趣旨に沿った、動きになっており、喜ばしく思います。

東京上磯会に、何度か出席しているうちに、私は

大太平洋セメント(株) 特約販売店
セメント、砕石、砂利、砂、生コン、石油製品等
道路工事資材の総合商社

みずかみ産業株式会社

代表取締役 水上 務
上磯郡上磯町飯生1-13-30
TEL.0138-73-4176

ひよんな事から、会長交代時期に、浜分小学校出身の幹事を仰せつかりました。その当時から、東京上磯会の第一〇回総会をぜひ上磯町で実施したいという案がありました。郷内新会長を始め幹事一同昨年からは本格的に計画を練り、上磯町との打ち合わせが始まりました。更に今年の五月からは、月一回のペースで詳細の打ち合わせを重ねました。当初は二〇〇名程度かとの心配をよそに、七〇名もの参加者となりました。出発当日羽田空港に集合した出席者は、みな期待に一杯のお顔でした。現地では「やっこ」や七重浜住民センター・レインボーでの札幌上磯会との合同歓迎会、また翌日の「ふるさとめぐり」は、生憎曇りで大沼、駒ヶ岳や函館山などはよく見えませんでした。「エイド'03」での上磯町会連合会婦人会の方々の心温まる「ほっきぎほん」等等、どれをとってもみな町の皆様の手をかけた、おもてなしを十分に感じ取れた満足のかゆく「ふるさとめぐり」でした。



ます。今後大野町との合併で新しい市に生まれ変わりましたが、「上磯会」の名は残したいものです。一〇周年記念にあたり、今後は若い方にも多く入って頂いて、東京上磯会が末永く続く事を期待しております。

故郷ツアーと父の死

佐倉市在住 事務局 黒田 博

昨年一月二八日月曜の夕方、一本の電話。それは父危篤の知らせだった。さらに八時一五分過ぎには死亡との電話にしばし茫然とするしか方法がなかった。何かキツネにつつまれたような…。

一〇月一七日、故郷ツアーで上磯町を訪問、町全体から大歓迎を受けて、夕方からの懇親会にも、父は元気な姿で中締め挨拶していった。三年前に母を亡くし、一人ぐらしながら毎日自転車を乗り廻し役場の会合や、社会福祉協議会の会合にも精力的に活動していたと聞いていた。

上磯訪問から二、三週間後の一月初旬、フラフラすると言って函館市内の病院で精密検査を受けるべく検査入院、一月一九日に病院からの呼び出し



で、妹と検査結果を担当医師から説明を聞き、父の希望で「胆管ガン」であることを伝え、余命一ヶ月の過ごし方など笑顔で話し合っただけだった。

父の年賀状の代筆を百枚程仕上げ、正月は東北あたりの温泉でゆっくり過ごしてもらおうとも考えていたのだが、(黒服を着る事になるとは思いもよらない状況だった)。それから一週間後、亡くなる当日の朝も競馬新聞をひろげ、看護婦さんを笑わせながら予想していたと言う。その日の夕方危篤の知らせから三時間で八八才の人生を閉じてしまった。年令からすれば大往生だろう。周囲の人間からすれば、これ程有がたい死に方はないと思う。

しかし息子にしてみれば「足がつめたからサスレ」[背中が痛いからモメ]くらいの世話を一日でも半日でもさせてくれて良かったらと思う。

父自身、母の看病で一年近く一生懸命がんばった経験を、子供達にはさせたくない思いから、足早に母のもとへと旅立ったのだらうけれど…。

これで上磯町に身内はなくなり、又平成一八年二月には合併により「北斗市」が誕生、上磯の文字が消えるに伴い、私自身の上磯への思いが薄れて行くことにさみしさを感じる今日このごろだ。



TAIHEIYO CEMENT

上磯工場

〒049-0193

上磯郡上磯町谷好1-151

TEL.0138 (73) 2111

大平洋セメント株式会社

随想 ニュージーランド二人旅

浜分小学校卒 中村 紀之

ニュージーランド（以下NZと呼称）は、一度は行って見たかった外国の一つである。今回ANAのマイレージが今年（二〇〇四年）中に切れてしまう事から年内をめどに、妻との2人旅を計画した。と言っても私の要望は、温泉に入り美味しいワインをいろいろ試してみる事で、日程や行き先などは全て妻任せであった。妻が地球の歩き方などを読み、インターネットを利用して飛行機、ホテル、バス（移動は殆どバス）等の予約などを家から行なった。無理をせず一箇所に2、3泊まる日程を組み、出発は成田発11月9日で帰りは26日の長期旅行となった。



オークランド

カンズカップを中心に船の博物館を見学。夜はムール貝をさかんに白ワインを飲む。NZワインは日本にはあまり出回っていないが大変美味しいワインである。

12日ワイトモ経由でロトルアへ。ワイ



友人の娘さん夫妻が開いてくれたパーティーで

トモでは土ホタルを見た。天井からぶら下がっている発光動物で、船で下から見ると、夜空の星のように見え大変幻想的である。ロトルアではポリネシアンスパに入った。海水パンツをはいての野天風呂である。ロトルアからタウポに遊びに行き、ホールウィンワンにチャレンジした。20\$で25発、一五ヤード先の湖に浮かぶ狭いグリーンに向けて打つ。ホールウィンワンすれば五千\$ももらえると言う遊び。5発ほど乗ったが至らず残念。

14日南島クライストチャーチへ。翌日私の友人の娘さん夫妻がワイナリーやカシミヤの丘などに案内してくれ、その夜は、ご夫妻の友人2組を入れてのパーティーで楽しいひと時を過ごした。

16日マウントクックへ。生憎の小雨であった。夜中に谷間を通る風の音がゴーゴーと鳴り凄いな音がさめる。カーテンを開け、夜空を見ると満天の星の中、南十字星が見えた。南半球でしか見られない貴重な経験をした。翌日も小雨模様の曇りであったがキープポイントまで往復2時間の散策をした。しかしマウントクックを見る事は出来ない。翌日に賭ける。

18日は晴天であった。朝8時40分、マウントクックを見るべくフッカーレイクを目指し片道2時間のトレッキングに出発。途中マウントクック・リリーや野ウサギを発見。2つのつり橋を渡り、ようやくフッカーレイクにつき雄大なマウントクックを見る事が出来た。来たかいたがあった。当日午後3時のバスでクインズタウンに向かう。ホテルでチェックインし部屋に入ってビックリした。2階続きのスイート（キッチン、2寝室、2風呂、1、2階共テラス付き）であった。3泊以上の連泊をする



マウントクック

16日マウントクックへ。生憎の小雨であった。夜中に谷間を通る風の音がゴーゴーと鳴り凄いな音がさめる。カーテンを開け、夜空を見ると満天の星の中、南十字星が見えた。南半球でしか見られない貴重な経験をした。翌日も小雨模様の曇りであったがキープポイントまで往復2時間の散策をした。しかしマウントクックを見る事は出来ない。翌日に賭ける。

和菓子の

末広軒

TEL.0138-73-3122

と1ランク上の部屋になるとの事で納得した。夜は決めていたレストラン、モンテイスに行き地ビールを飲む。日本のビールより辛さ少なめで濃くの味であった。

翌日は雨だったので町を散策、帰ってからジャグジー風呂で体を温める。次の日は、平均傾斜37度のゴンドラでボブズヒル山頂へ登りサザン・アルプスや町並を見たり、蒸気船でワカティブ湖のクルージング、対岸では牧羊犬の仕事振りを見たりした。

21日ダニーデンに向かいその日は町の散策をする。翌日午前にラーナック城、午後からはアホウドリやオットセイのコロニーを海上から見るクルージングに参加した。23日再びクライストチャーチに戻った。クライストチャーチでは前回行けなかったハグレー公園でのバラ園やカンタベリー博物館を見学した。当博物館には南極探検関連の物が有り大変興味を持って見たが、売店には南極関連の物は売ってなく翌日また行った。上記の理由を言って写真を撮る許可をとり、白瀬中尉が使った木造機帆船「開南丸」の模型や他国の雪上車などの写真を撮った。25日オークランドに戻り、26日帰国した。



ラーナック城

帰りの飛行機はダブルブックキングの為か、ラッキーマ事にビジネスクラスに成り、しかも2階の席であった。今回の旅行もいろいろと心に残る出来事があり、大変楽しい旅行になった。

歳事記「シクラメンのかおり」

小田島二郎

娘が学生の頃、「シクラメンのかおり」という唄をよく部屋で口づさんでいたのを聞いていたものです。

娘は今でもこの花が大好きらしい、自分の書く童話にもよく出てきます。シクラメンにはなにか本人だけの 思いがあるのかも知れない。

そして毎年クリスマスになると一鉢、家に届けてくれる。

赤、白、緋、紫、そしてこれらの淡い色などなど。見る者たちの気持ちを和ませてくれます。

それが今ではひと部屋に一鉢づつ供えて観賞できるようにになった。好みの色や鉢の大小によって部屋を移動させたこともあるが、天気の良い日は、みんな庭に集めて日光浴や手入れなどをする。手入れはおもに女房殿の担当になっている。

そしておもしろいもので眺めているうちに、どの鉢にも我が家の小さな歴史があり、思い出話しはつきない。

子供たちの入学、卒業、就職、結婚、そして親たちの誕生日などの理由がついているのも楽しいものである。

近頃では、喜寿とか傘寿の祝として届けられた。シクラメンを眺めていつも思うのだが唄には「シクラメンのかおり」とあるが実際にはこの花からは香りは散じてこないのではと思っておりました。そうです。形、色が整い、花開く瞬間の変わりようをジッと見ているとこれはまさに香りそのものの様に感じてくるので不思議です。香りのギモンが解けたような気分です。

シクラメンは可愛い花です。これからも永く育んでいきたいと思うこの頃です。

シクラメンは直

接句うのではなく、馨、香、かおりはあくまでも眺める人の心の中の感じ方にあると思っております。

近頃は本当に香

るシクラメンを栽培しているという、早くお目にかかりたい、楽しみにしております。

シクラメンがこの国に渡来したのは明治二五、六年頃だそうです。いろいろな色やそれをぼかしたような色は、気品ある花彩として珍重されてきたらしい。

だが、この花の球根にはあまりキレイでない呼名がついています。イタリアでは放し飼いの豚が好んでたべることから（豚の饅頭）と呼ぶそうです。これでは花がかわいそうな気がしませんか。日本では（かがり火花）という呼名もあります。

では、駄句を並べて終ります。

娘らの はなやぐ香り シクラメン
歳月を もどして老いの かがり火花
かがり火花 昔語りを 顔にのせ

北
州

真心のこもった奉仕で創業86周年



株式会社 石崎公益社

石ざきホール上磯

石ざきホール七重浜

代表取締役 石崎 幸男

本社 上磯郡上磯町飯生1-9-5 TEL.0138-73-3393 (代)
ホール上磯 上磯郡上磯町飯生1-11-28 TEL.0138-73-4823
ホール七重浜 上磯郡上磯町七重浜3-2-38 TEL.0138-48-8341

追悼の辞

会長郷内 繁

この度、本会の名誉会長である相馬正樹さんのご逝去の報に接し、あまりの突然のことに驚きと悲嘆にくれて居ります。と申しますのはその三週間程前とあるパーティーにご一緒させていただきました。相馬さんはとても元気にうれしそうに盃を傾けて居られました。そのお姿が最後になるとは本当に夢にも思っておりませんでした。

故相馬さんは本会の設立に御尽力され、初代会長として会の発展・充実に力を注がれただけではなく、今日まで私達後輩の指南役として適切な助言を与えてくれました。相馬さんは教養溢れる高潔なお方であると同時にユーモアのセンスもお持ちでした。そんなお人柄に会員の誰もが尊敬し、親しみを感じて居りました。まことに本会にとっては大きな損失であります。

しかしながら今となつては心よりご冥福をお祈りするばかりです。今後は初代会長の意を無駄にすることなく、私達は上磯町の皆さんと共に、新しく生まれ変わる上磯の将来に期待の胸を膨らませつつ、又本会の更なる発展に力を注いでまいる所存です。



在りし日の故・相馬先生と筆者

追悼のことば

相談役 小田島二郎

正樹兄さん、いまあなたは何処まで行つてしまわれたのですか。

あなたは、愚弟の私にとってかけ替えのない大きな存在でした。

あなたとの生きてきた時間はどの誰よりも永い時間でした。いま私は心に大きな風穴が出来たような、そんな淋しい気持を拭い去ることが出来な

いであります。

あなたとのめぐり合ひは私たちが一〇代の頃です。それから約七〇年にもなります。

そんな永い友情を続けることができるものだろうか、人生にとつても、例え親子でも、また夫婦でも、稀にみる年月間であると思います。

そのあなたとはいろいろなことを経験し教わりました。勿論、教わつたのはいつも私でした。改めて感謝の念でいっぱいです。

永い間のあなたとの思い出はいくら話してもつきない程あります。

函中時代に汽車通をしていたころから、旭川で同じ兵舎で何日か過ごしたときのこと。

私が上京した当時、新宿の通称（小便横丁）によく呑みに行つたことなど、そしていろいろなことを語りました。

世の中のこと、教育のこと、仕事に関わること、家庭のこと、あれもこれとも思い出は忘れられません。

また、高輪の校舎とか、清水の校舎にも幾度びも訪ねたこともありました。

とくに、清水では市街地や港をガイドして下さいました。その頃の私は、ある会社の人事担当でありましたが、いろいろ参考になったことを鮮明に覚えております。

そして、ある年、二人で道南会に出席したことが

あり、この時、東京上磯会を立ち上げようということになりました。そのときはどこから始めるかなど五里霧中のスタートでした。

その間、何度二人で打合わせをしたことか、議論に議論を重ね時間の経つのも忘れ、ついにあなたの家に泊まつてしまったこともありました。

いま思えば、これもあなたが誠心誠意に心を注いだ賜ものだと思います。ありがとうございます。

あれから早くも十年、ふる里訪問―記念総会を開催し一緒に出席しました。これが、あなたとの最後の出会いとは夢にも思いませんでした。悲しい限りです。

上磯会も後継者も育ち、より一層の発展も期待できるものと思います。

更に、もうひとつ、あなたから頂いたその著書「未知の扉を開いた先駆者たち」、「野生動物からのメッセージ」、「ゴマメの園ぎしり」などは、今も尚、読んでおり、あなたの人となりを考えているところでございます。

あなたは私にも量り知れない程の思い出と、人間生活への訓えを示唆してくれました。これに応えることもなく終わりましたことが心残りです。

最後に、この永い年月の間に、あなたが歌を唄つたのを一度も聞いたことがありません。だが、いつも私の歌を聞いてくれました。とくに私の持歌「鈴かけの径」を好まれていました。

この歌を、あなたにお届けしてお別れします。どうぞ安らかにお休みになつて下さい。

「友と語らん、鈴かけの径

通いなれたる学舎の道

やさしの小鈴

葉かげに鳴れば

夢は還えるよ、鈴かけの径」

(合掌)

長旅の疲れも見せず町役場前で歓迎を受ける会員



会員90人伝統芸能や 歓迎のつどいに感激



海老澤町長から花束を受け取る郷内会長(左)と春野会長(中央)

町出身者の会による公
式の訪問は約5年ぶり。
東京上磯会が設立10周

くなることに、寂しさも

続いて札幌の春野会長が「遠くに思ってきたふるさとをこの目で見たくてやって来た。変革の中で発展を続けるまちづくりに敬意を表したい」とエールを送ると、出席者は水上務町議会議長の発声で乾杯。飲食を囲んで

あるかもしれない。数少
なくなくなった昔の上磯を感
じさせる風景を、満喫し
てください」と歓迎のあ
いさつを述べた。
郷内会長、春野会長に
花束が贈られた後、町役
場前で町の伝統芸能「上
磯奴(やっこ)」を披露。
鈴の音と勇壮な掛け声に
乗せて繰り広げられる行
列に、会員は感動した様
子だった。
町七重浜住民センター
に場所を移して開かれた
歓迎のつどいで、東京の
郷内会長は「久しぶりの
帰省に、子供のころの記
憶が脳裏をかすめる。い
つまでも自慢できる町で
あってほしい」とあいさ
つ。

東京、さっぽろ上磯会

ふるさと訪問 昔懐かしむ

【上磯】町出身者でつくる東京上磯会(郷内繁会長)、さっぽろ上磯会(春野守夫会長)が17日、合同でふるさと訪問を果たした。合同での訪問は今回が初めて。会員はさっぽろを離れた町に面影を探しつつ、昔を懐かしんだ。

年、さっぽろ上磯会が同
40周年と、節目を迎えた
ことから日程を合わせ
た。
両会から約90人が来
町。町民の出迎えを受
け、町役場に到着した会
員は早速、歓迎式に出席
した。

海老澤順三町長が、大
野町と協議中の自治体合
併など、町を取り巻く現
状を説明。「人口の増加

歓談し時を過ごした。
東京の一行は18日、町
内各所を見学した。
(阿部里子)

道南まちなみネット



編集後記

お正月気分が抜けたか否か判断がつかないうちに早二月……昨年の暮れから準備をはじめた会報も無事完成、会員各位にはお気に召していただけただけでしょうか???

小田島相談役をリーダーに会長を含む六名の委員の頑張りで結構満足のゆく出来ばえと自慢したい気分ですが、読者の皆さんはどんな印象をお持ちでしょうか。ご意見やご感想をお聞かせいただければ幸いです。

連日報道される殺人事件や偽札事件、振り込め詐欺と暗い事件が続きますが、せめて上磯会の皆さんには今年一年が素晴らしい年となりますよう、役員一同心よりお祈りいたしております。

又、十月か十一月ごろに第十一回の定時総会を計画しています。皆様方の期待にこたえられるような企画を考え、ご案内いたしますので旅行などお出掛けをちよつと控えていただき、多数の方々のご出席を賜りますようご協力お願い申し上げます
(黒田記)

上磯会会報「磯の香」

10周年記念新春号・通算第5号

発行 東京上磯会

発行人 郷内 繁

編集責任 黒田 博

発行日 平成17年2月20日

事務局 小松 直樹

住所 〒二三六〇〇四六

神奈川県横浜市金沢区

釜利谷西二三三二一

電話/FAX〇四五七八四五〇三〇

上磯会・役員一覧

役職	氏名	住所	出身町
名誉会長	相馬 正樹	逝去 平成16年12月	上磯
会長	郷内 繁	東京都港区	上磯
副会長	宮崎 紀夫	千葉県浦安市	上磯
副会長	平野富久子	東京都江東区	上磯
事務局長	小松 直樹	神奈川県横浜市	上磯
事務局	坂本東洋志	埼玉県三郷市	茂辺地
事務局	黒田 博	千葉県佐倉市	上磯
会計	加藤 和子	東京都町田市	茂辺地
会計	藤田 幸	東京都杉並区	浜分
会計監査	相馬 滋	神奈川県横須賀市	上磯

役職	氏名	住所	出身町
幹事	浅部 敏彦	東京都豊島区	上磯
幹事	佐藤 金也	神奈川県横浜市	茂辺地
幹事	高橋 昌三	東京都新宿区	石別
幹事	本間美耶子	東京都墨田区	上磯
幹事	黒滝 祐司	千葉県我孫子市	谷川
幹事	石井 郁子	東京都練馬区	谷川
幹事	中村 紀之	東京都東大和市	浜分
幹事	武井満野子	東京都墨田区	峯朗
相談役	小田島二郎	東京都日野市	上磯
顧問	海老澤順三	北海道 上磯郡 上磯町	上磯町長

「東京上磯会」会則

1. 本会は「東京上磯会」と称し、事務所に置く。
2. 本会は東京都及び近郊在住の北海道上磯町出身者並びにその縁故者をもって組織する。
3. 本会は会員相互の交流と親睦をはかり、併せて故郷の限らない発展に寄与する。
4. 本会は前項の目的を達成するために次の事業を行う。
 - (1) 集会の開催
 - (2) 会報の発行
 - (3) 会員名簿の作成
 - (4) その他本会の目的達成に必要な行事
5. 本会に次の役員を置く。

会長	1名		
副会長	2名		
事務局長	1名	事務局	2名
会計監査	1名		
会計	2名		
幹事	若干名		
6. 会長及び副会長、会計監査は総会において選出し、事務局長・事務局・会計並びに幹事は会長が委嘱する。
7. 役員任期は2年とする。但し、再任は防げない。
8. 集会は次の5種とする。

(1) 総会	(4) 役員会
(2) 臨時総会	(5) 幹事会
(3) 懇親会	
9. 総会は毎年1回開催し、予算の審議並びに前年度の会務及び決算報告を行い、併せて重要事項を審議する。
10. 本会の経費は会費及び寄付金をもって充てる。会費は年2,000円とする。
11. 本会の会計年度は9月1日から8月31日迄とする。
12. 本会に入会せんとするものは、所定の申込書に入会金を添えて会長の承認を得るものとする。
13. 本会則は総会の決議により変更する事が出来る。
14. 本会則は平成7年10月1日より実施する。
15. 本会則は平成15年10月18日より改訂、実施する。

以上



東京上磯会設立10周年記念・さっぽろ上磯会設立40周年記念 ふれあい訪問 平成16年10月17日
於：七重浜住民センター(れいんぼ～)